

## 第3回たかつきNPO協働フェスタを開催 !!

担当理事 飯村六合夫

12月1日(土)、生涯学習センター展示ホールおよび3階会議室を会場にして、「市民パワー100% ~ともに創ろう私たちのまち~」をメインテーマに、第3回たかつきNPO協働フェスタを開催しました。

今年、たかつき市民活動ネットワーク、市民公益活動サポートセンター管理運営委員会およびボランティア・市民活動センターが呼びかけ団体となり、8月7日に実行委員会が発足しました。より多くの市民活動団体に参画していただくため、高槻市広報で参画団体を公募し、企画案をつめる企画会議と、それを実行する実行委員会を構成しました。実行委員会には、35団体が参加されました。また、参画団体には、より主体的に関わっていただくため、1団体1000円の参加料を負担していただきました。

開催目的は、「市民活動に携わるNPOやボランティア団体の活動について、“市民に知らせ啓発する”を柱に、NPOやボランティア団体間のネットワークを構築、NPOと行政の協働を進める。」とすることが第1回実行委員会で確認されました。

実行委員会を5回、企画会議を8回開催し、参画団体が協働して準備を進め、フェスタ当日を迎えました。

第1会場のメインステージでは10時40分から15時30分のお楽しみ抽選会まで、交遊亭楽笑さん、上場瞳さんの笑いの絶えない司会進行で進みました。女性トリオappealによるオープニングアクト、からくりオルゴール演奏、クリスマスソングの楽器演奏、民謡、蛍光色を使った紙芝居等、が続きました。参加団体登場のPRスポットもありました。

会場には、メインステージ、「食べる」「住む」「育む」「助け合う」「支える」の5つの分野別参画市場、協働実

践ブースを設けました。

第1会場の「食べる」のブースでは、4団体が参画し、高齢者向けの食が展開され、お弁当も販売されました。「住む」のブースでは8団体、「育む」には9団体と狭いスペースの割付けになりましたが、協働・協調のねらいは達成できたようです。「助け合う」は7団体、体験が主体の展示でした。行政職員の参加も、これまでより多かったと思えました。

また、これまでと同様にスタンブラリーが行われ、明

治製菓大阪工場のご好意で提供されましたマーブルチョコレートが配られました。お楽しみ抽選会には、多数の企業から、景品の提供がありました。

たかつき市民活動ネットワークが主担当をした3階の第2会場のブースは「支える~豊かな生活づくりと世界に拡げる支援~」で、スタンブラリーのゴール

になりました。「映像による活動紹介」、団体関連物の販売、そしてからくりオルゴールの演奏等で、1階からの来場のお客を3階に誘導するねらいでした。5つの団体が壁面を使用して活動状況を展示しました。しかし、3階までの流れにならず、来場者の60%位が第2会場来場者となったことは、今後の課題であると思えました。

お子さんを含め、凡そ450人と昨年とほぼ同じ程度の来場者数でした。好天であったにも拘わらず、例年と比べてお子さまの来場が少ない淋しさを感じました。また、参画団体は昨年より3つ減ったの35団体でしたが、新しく初めて参加の団体の活動には情熱を覚えました。この頑張り市民パワーに繋がって欲しいものというのが、全体としての感想です。12月20日の第6回実行委員会で総括をして、課題の抽出をし、来年度以降の方向を検討することになります。





# 市民活動セミナー「社会を変えるお金の使い方！」

12月15日、生涯学習センターにおいて、市民活動セミナー「社会を変えるお金の使い方！～あなたの意志とあなたのお金で世界を変える～」を開催。高槻市をはじめとして、茨木市、堺市、大阪狭山市、和泉市、富田林市、神戸市、京都市など関西一円から市民活動に関わっておられる方々約30名が参加。

## (1) 講演「お金の流れが社会を変える！～お金を地域で循環させよう～」

講師：法橋聡さん(近畿労働金庫 地域共生推進部 部長)

暮らしや経済を根元で支える「お金の流れ」は社会を良くも悪くもする。これまでのお金の流れは、私たちが預けた後の使い道を金融機関に白紙委任したため、闇金、サラ金、地上げ資金などに流れ、暮らしと社会を壊すことに使われている。これからは、意志を持ったお金の流れを創ることで社会の姿をかえることができる。お金の使われ方を意識して預金・投資や消費、募金などを通して社

会貢献できる。また、市民・NPOが自らもう一つのお金の流れを創るNPOバンクも登場している。地域こそが社会変革の現場であり、地域の資源(人、モノ、関係)を地域で回すお金の流れの仕組みを創ることが求められている。た



## (2) 事例紹介「口座を変えれば世界が変わる！～笑顔につながる貯金がある～」

講師：木村真樹さん(コミュニティ・ユース・バンクmomo 代表理事)

エコ貯金とは、環境破壊や人権侵害をしていない企業や身近な地域、社会に向けたお金の流れを実現するための貯金スタイル。金融機関を選ぶときに、便利さや利息だけでなく、社会性の視点も加えて金融機関を選びなおすアクションを2005年から実施。これまでに、エコ貯金宣言をした人数は、1049人、選び直した預金額累計は、6億7000万円。経済全体をエコロジーにする金融機関を応援することが必要。

が参加。また、融資先の情報を公開し、出資者にお金の使われ方が見えるように工夫している。融資先の運営支援を重視し、貸し倒れは殆ど報告されていない。momoの出資者は、現在152名で、出資総額は1600万円。出資金への配当はないが、運営議決権がある。

NPOバンクとは、市民、NPO、企業などが出資をし、NPOやコミュニティビジネスに融資をし、社会貢献型の事業を応援する。その特徴の一つは、融資先の審査メンバーには、財務・会計・金融の専門家だけでなく、市民活動の実践者や主婦など

ノーベル平和賞受賞者であるグラミン銀行ユヌス氏から、NPOバンクへのメッセージ：「既存の銀行システムは担保を基本に、それを用意できない人々を拒絶しています。しかし、彼らこそ最も金を必要としているのです。グラミン銀行のような支援機関が、貧しい女性に金を貸すことによって、彼らの家族をいかに貧困から脱出させることができるかを証明しています。」

## (3) 自由討議「社会貢献のためのお金の使い方を考える」

予定時間を30分も延長して、20代、30代の若い方々も参加し、熱心に意見交換が行われました。



# 「パソコン活用講座」を開催！

10月～12月に、たかつき市民活動ネットワークとしては、初めての「パソコン活用講座」を市民活動センター「みんなの家」で開催しました。3回の参加者の延べ人数は27名で、ほぼ定員いっぱい

の盛況でした。毎回実施した参加者のアンケート結果でも全体として好評でした。大変丁寧で内容の豊富なテキストと講師の分かりやすい説明が評価されたと思います。また、参加者1～2名に講師補



助者が1名付く万全のアシスタント体制も効果的でした。この講座は、団体会員「北摂SITAの会高槻支部」の皆さんのボランティア精神に基づく全面的なご協力で開催できました。改めて感謝申し上げます。今後、IT活用委員会を中心に、ICT(情報通信技術)の活用支援に取り組んでいく予定です。ご要望、ご意見などありましたら、事務局へお知らせください。

# シニア・団塊の世代の生活設計

担当理事 山下 征紀

団塊・シニア世代の方々が地域にデビューしていただくと、まちづくりの活力が生まれます。そのような期待を想定し、昨年は生活意識調査を実施し、報告をお届けしました。そのポイントは以下の4点でした。

- (1) 生活のあり方では、“自分の時間を大切に、趣味やライフワークを楽しみたい”(16.4%)  
果たして、このまま、待っていても、自分時間を作り出せるものでしょうか？
- (2) 定年後も働きたい方は70%で働きたい理由は“生きがい・社会とのつながり・健康のため”のウエイトが高い(3つの合計で63.6%)  
定年後は身に付いた働き方をリセットする覚悟がなければ、うまく着地することが出来ないのではないのでしょうか。そして、65歳以上を働こうと考えている人はなおさらではないでしょうか。
- (3) 今後の生活を考える上で勉強したい項目は“心身の健康管理”(24.2%)、“生きがいづくり”(16.3%)、“経済プラン”(14.1%)、“地域活動”(12.8%)でした。又、不安な事項と



しては“年金の目減り”(21.9%)と“医療”(18.4%)でした。これまで団塊・シニアに絞った、しかも再就職を含んだ学習プログラムを見つけることは難しい。行政のスポット啓発講座では自分のものになりきれないのではないかと。

- (4) “機会があれば、希望するプログラムがあれば参加する”(55.0%)  
フィットするプログラムを手作りで是非つくってみようと思立ちました。

以上の経緯で5名のメンバーによる[DANKAIプロジェクト]を発足させ、以下の内容で、教材と学習プログラムの開発を目指しております。「第1章」退職手続きと制度の理解～年金をしっかりと捉える～  
「第2章」団塊・シニアの経済プラン  
「第3章」心身の健康管理  
「第4章」これからの生きがい・キャリアづくり  
「第5章」地域活動の中に自分を探す  
「第6章」地域活動からコミュニティ・ビジネスへの経緯のもと、自分の生活設計(10年の軌道)ができあがります。ご期待ください。

## 「高槻市におけるNPOの協働促進のための調査報告書」を発刊！

担当理事 宮地 剛

会報第18号で、「NPO・市民活動団体の協働促進のためのアンケート調査」を実施したことをお知らせしましたが、調査結果をまとめて、冊子「高槻市におけるNPOの協働のための調査報告書」を11月末に発刊しました。この調査は、「高槻市のNPO・市民活動団体が抱えている問題を具体的に明らかにし」、「それらの問題を解決するための方策を検討する」ために情報を共有することを目的として実施しました。調査結果から、2/3以上の団体が、他団体との協働を必要と考えておられることが分かりました。

そこで、10月21日に調査報告・交流会を開催し、参加された団体の



方と意見交換をした結果、来年1月20日(日)に、「(仮称)たかつきNPO協働研究会」の第1回会合をもつことになり、現在ご案内をしているところです。この冊子は、会員の皆様には、会報第19号に同封して各1冊無償配布いたします。じっくりお読みいただいて、ご意見を事務局にお寄せください。

また、会員以外の方には、1部500円で頒布していますので、多くの方にPRをお願いします。すでに、関西一円の15の市民活動支援センターの皆様にご購入いただきました。今回のアンケート調査票を使って他都市でも同様の調査をし、比較をする可能性も出ています。



## 交流サロン～ルネッサンス塾の経緯と課題

TCAN(たかつき市民活動ネットワークの略称)が設立されて以来、市民が参加できる「語り合う場作り」を行ってきました。それが交流サロン・ルネッサンス塾です。03年TCANが設立され、まずは交流サロンと称して、「会員相互を知ろう」でスタートしました。そこでは「市民活動の想い」を相互に交換・交流してみました。2・3年目は「行政のことを知ろう」と視点を外向きにし、例えば、会員の市議員さん4名による「社会活動による想いと課題」、若手の市職員による「毎日の業務と協働」、高槻の施政方針・学校教育の現状と課題、高槻市の歴史を学ぶ、市産業振興の現状とビジョン等18回にわたって実施しました。4年目となった昨年は「たかつきルネッサンス塾」と名称



担当理事 山下 征紀

を変え、発刊済みの「高槻市民が知りたい100項目」を使用したワークショップを行い、気になる項目を指摘しあって課題を整理し、以下の内容で進めました。

コミュニティ・スクールとは何だろう 教育政策室ってどんなところ！ 知って安心・自主防災 地域防災の事例 高槻の行財政改革の現状と課題  
そんなこんなの中で、“市民参画を創り出す、市民作り”を行い、延べ600人を超える参加を数えました。今後の課題は参加者が固定化しつつあることをどうするか、お金がない中でのテーマ企画とゲスト招聘です。どなたかよい知恵をお貸し下さい。要は「考える市民作り」だと思っております。

## TCANの活動状況(10月～12月)

担当理事 日比 徹

定例会議

理事会;毎月第2火曜日計3回

みんなの家運営協議会;毎月最終金曜日計3回

市民活動参画促進

(1) たかつき市民が知りたい100項目編集会議;毎月第1,3火曜日計6回

(2) たかつきルネッサンス塾;10月度(消費生活)、11月度(少年非行と背景)計2回

(3) シニア・団塊世代の生活設計p/j;毎月第2,4土曜日計6回

市民活動基盤づくり促進

(1) IT活用委員会;毎月第2土曜日計3回

(2) 5周年記念誌編集会議;ほぼ月1回

不定期開催行事(講習会・セミナー等)

わいがやサロン(11/24);17名参加

パソコン活用講座(10/28、11/11、12/2);計3回延27名参加

NPO団体間の協働アンケート調査結果報告会(11/21);9団体参加

NPO協働フェスタ(含む、企画会議・実行委員会)に参加(12/1)

当日:「支える」ブースおよびスタンプラリーを担当。

市民活動セミナー開催<社会を変えるお金の使い方>(12/15);他市団体をふくめ29名参加。

市民活動センター「みんなの家」環境整備(11/18);5団体16名参加



### 編集後記

「どがなかせんといかん」「そんなの関係ねえ!」の流行語大賞に加えて、今年の一字漢字は『偽』。世相は格差と孤独に向かった辛い一年と感じた人が多いようです。ボランティアで活動する私たちは、せめて、心をつくして誠意を尽し、コミュニケーションのある明るい社会を築く努力をしたいもの。2008年に期待しましょう。「緑」